

日本人の鬱 Gender's Effects on Depression in Japan

クリスティーン・リー Christine Lee

82-372: Advanced Japanese II

1. はじめに

なぜ日本で男性のほうが女性より鬱病があるか。私がこのトピックを選んだ理由は鬱病のことはずいぶん悲しくて、苦しいので、理由が知りたいからだ。それに、日本で様々なブラック企業という会社が社員に給料を十分にあげないで、たくさんの残業をさせるから、多くのサラリーマンが憂鬱になったそう。私はそういうひどいことをしている企業を調べたり、他の企業が他の悪くしていることを知ったりしたい。日本で、たいていの家族は男性にたくさん期待している。たいてい男性は学校でいい成績を取ったり、いい仕事を見つけたりしなくてはいけない。男性は家族を支えなくてはいけないから、男性には多くの義務がある。プレッシャーがたくさんあるから、ストレスは男性を憂鬱にさせる。だから、男性のほうが女性より鬱病があると思う。

2. 日本で男性と女性とどちらのほうが鬱病があるか。

2. 1. 日本の社会で男性は何を期待されているか。

日清ラーメンの広告は男の人のためだ。広告で筋肉質の男の人が麺を強く振っているのが見える。それに、激しい声が「麺！」で叫んでいる。日本語の「麺」の発音は英語の「男」の発音と同じだ。広告には多分「男は強くなるべきだ」というメッセージがあるのだろう。授業に来た莫曉靈さんと大槻一統さんは日本で社会全体の理想的な男性が高賃金の仕事があったり、家族を支えたりする我慢強い男性だと言っていた。しかし、

いい仕事を見つけられるために学校でいい成績を取らなくてはならない。だから、男性はたくさん期待されている。それから、一成さんによると時々日本人の親は男の子に「感情を表せないで」ということを言うそうだ。日本で感情が弱そう見たいだと思ふ。だから、日本の社会で強くて、いい仕事があって、家族を支えられて、感情を表さない男性が一番いい男性だろう。

2. 2. 日本の会社は男性に何をさせるか。

莫さんは男性が家族を支えなくてはならない感情があるので、男性が会社で大変だと言っていた。家族を支えなくてはならない義務だから、男性のほうが会社で残業をするだろうか。「ブラック企業大賞2014」によると、28歳の若者は第二位の会社のJR西日本に過労させられて、自殺したそうだ。毎月、若者は会社に100時間の残業をされて、ある月は250時間以上の残業をされたそうだ。ブラック企業大賞のサイトによると、その後若者は憂鬱になって、限界に達して、「マンションの14階から身を投げ自死した」とそうだ。その前、若者はJR西日本で三年間しか働いていなかった。若者が亡くなるのは悲しいが、男性だけか。

2. 3. 日本の社会で女性は何を期待されているか。

「セゾン」というクレジットカードの会社の広告でピンクのドレスを着ている女の人が頭で屋根瓦を壊す。日清ラーメンの広告のように強さが大事だが、ここで女性は屋根瓦を壊してから、可愛く「ありがとうございます」と言う。だから、この広告はあまり「女性は強くなるべきだ」というメッセージがない。女性が可愛く屋根瓦を壊せることは「かっこいいね!」という感情がある。素晴らしい才能を披露するための広告だ。それから、莫さんと大槻さんは日本で社会全体の理想的な女性がいい料理できたり、家事をしたり、いつも笑っていたりする優しくて、育児が好きな女性だと言っていた。しかし、溝部恵美子さんは少し反対だった。溝部さんは社会全体の理想的な女性が「ガツガツ」働いていながら、育児をしている女性だと言っていた。溝部さんはそう言いながら、女性があまり仕事をするべきではないと言っていた。莫さんと大槻さんによると日本で働いている女性があまりモテないそうだ。

2. 4. 日本の会社は女性に何をさせるか。

「日本の働く女性は世界で一番寝ていない」というグラフによると、働く男性のほうが働く女性よりもっと寝ているようだ。それはたいてい女性は子供を世話するからかもしれない。それに、溝部さんと大槻さんはたくさんの会社の社員が大体男子だし、一所懸命働かなかっただら、成功できないし、女性が会社で大変だと言っていた。だから、女性は成功したがっているのもっと残業するかもしれない。例えば、ワタミ会社のレストランの社員の森美奈さんは働き始めてから、三ヶ月後に自殺したそうだ。森さんは社長から「今月の販売に反映してから、自殺するべきだった」というメッセージももらったそうだ。ブラック企業の犠牲者は女性も男性もありそうだ。

2. 5. 日本で男性と女性とどちらのほうがもっとプレッシャーがあるか。

日本の社会で男性のほうが女性より期待されている。それに、「日本で1950年から2009年まで自殺の率」というグラフによると、男性のほうが女性より自殺する。たいてい人は極端な状況だけあったら、自殺を選ぶ。男性の自殺の率が女性のより多くて、重要だ。女性は子供がいるので、自殺させられないからかもしれない。残業させられているからだという可能性もある。しかし、ブラック企業は女性と男性を同じ位残業をさせるみたいだ。それから、一成さんは日本で男性のほうが女性よりしなくてはいけないことが多いと言っていた。しなくてはいけないことのほうがしてはいけないことよりもっとプレッシャーがあると思う。それに、男性より女性のほうが他の人と自分の問題について話せるそうだ。男性が困る時、あまり対処できないかもしれない。たくさんの男性は子供の時、親が感情を表さないとされたからだと思う。日本の男性らしさは強いので、多くの男性は自分の家族や友達に相談できないだろう。それから、男性は家族を支えるはずなので、家族は心配されてはいけない。女性のほうが会社で大変かもしれないなのに、男性は対処する方法がない。女性は家族を支える義務があまりない。それから、男性はプレッシャーがたくさんある時、もっと神経衰弱があるかもしれない。だから、男性のほうがプレッシャーがあると思う。

3. おわりに

日本で、たいていの男性は家族にたくさん期待されている。たいてい男性は学校でいい成績を取ったり、高賃金の仕事を見つけたりしなくてはいけない。男性のほうがかもつとしなくてはいけないことがある。それに、男性のための広告はプレッシャーを使って、「男性は強くなるべきだ」というメッセージを送る。しかし、女性のための広告はそんなメッセージがない。それから、女性のほうが会社で大変かもしれないなのに、男性のほうがあまり対処できない。男性は家族や友達に相談しないから。プレッシャーがたくさんあるから、男性はストレスによって憂鬱になる。それに、対処する方法がないので、気分が悪くなるかもしれない。だから、男性のほうが女性より鬱病があるのだろうと思う。理由は対処する方法がないからだったら、学校で対処する方法を教えたほうがいいと思う。それに、日本の期待を変ったほうがいい。男性が感情を表せてもいいから。それから、ブラック企業を調整したらいいと思う。そうしたら、鬱病を減少できるかもしれない。だから、男性のほうが女性より鬱病があるが、鬱病の原因を直せばいい。

参照

http://blackcorpaward.blogspot.com/p/blog-page_12.html

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A5%D6%A5%E9%A5%C3%A5%AF%B4%EB%B6%C8>

<https://www.youtube.com/watch?v=WTq5nYWFh0>

http://www.who.int/mental_health/media/japa.pdf

https://www.youtube.com/watch?v=foaRL4F_Aqw

<http://news.doctor-trust.co.jp/?p=3702>

<http://www.tofugu.com/2014/04/25/awful-japanese-black-companies/>